

# Mémoires 2019

## 宝塚記念

第60回宝塚記念[G1]優勝馬 リスグラシュー



## 並みいる牡馬を撃破

▶ 牝馬の優勝は4回目、自身はG1・2勝目となったリスグラシュー。



1番人気に推された2017年の菊花賞馬キセキをはじめ、2頭のダービー馬などクラシックホース4頭が顔を揃え、前年の大阪杯の覇者スワーヴリチャードも加わったラインナップで迎えた第60回の宝塚記念。しかし、この精鋭牡馬を抑えて春のドリームレースを圧倒的な走りで制したのは、紅一点での出走となった前年のエリザベス女王杯勝ち馬リスグラシューであった。

ゲートが開くと、最内枠から出たキセキが手綱をしごかれながら先手を主張。そこへ大外枠から好スタートのリスグラシューが追り、2番手へ。先行2頭の後ろにアルアインが付け、中団にはスワーヴリチャードとレイデオロが追走。マカヒキは最後方を進んだ。平均ペースで逃げるキセキは、3コーナーあたりから少しずつペースを上げ、リスグラシューも鞍上との呼吸を合わせてキセキを射程圏に収めながら進む。中団の有力馬たちも、ここが勝負所とばかり鞍上に促されて追撃を開始する。

先頭を走るキセキが逃げ込みを狙い直線に入る。後続の有力馬たちはなかなか差を詰められなかったが、残り200mの手前、絶好の手応えでゴーサインを待っていたリスグラシューがスパート。あっという間にキセキに並び、それを飲み込んだ。ゴールした時には、3馬身もの差をつける圧勝劇を演じたのだ。

「後ろに強い馬がいるのは分かっていたので、先頭に立つのが早いかもしれないと思いましたが、馬の力を信じて正解でした」と、この年2つ目のG1制覇となったダミアン・レーン騎手は笑顔でガッツポーズ。本レース初挑戦で初勝利をあげた矢作芳人調教師は、「馬の状態には自信がありました、これだけの牡馬を相手に勝ってくれるとは。その強さに感動しました」と感激した面持ちだった。リスグラシューは、前年のエリザベス女王杯で初めてのG1制覇を果たしたあと、2回の香港遠征を経験。近走は惜敗続きだったが、確実に成長を遂げていた。

この勝利でコックスプレート(G1)の優先出走権を得たリスグラシューは勇躍、オーストラリア遠征に向かい、さらなる進化を見せてくれることになる。



▲ 積極策のリスグラシュー(帽色・桃・左)が2番手で4コーナーを回る。

### 第60回宝塚記念[G1]

6/23 阪神競馬場 2200m(芝・右) 曇・良 12頭

着順	馬名	性別	年齢	斤量	騎手	調教師	タイム/差	人気	通過順位
1	リスグラシュー	牝	5	56	D.レーン	矢作 芳人	2:10.8	③	②②②②
2	キセキ	牡	5	58	川田 将雅	角居 勝彦	3	①	①①①①①
3	スワーヴリチャード	牡	5	58	M.デムーロ	庄野 靖志	2	⑥	④④③③
4	アルアイン	牡	5	58	北村 友一	池江 泰寿	2	⑤	③②③③
5	レイデオロ	牡	5	58	C.ルメール	藤沢 和雄	3/4	②	⑥⑥⑤⑤
6	ノーブルマーズ	牡	6	58	高倉 稜	宮本 博	1 3/4	⑩	⑧⑧⑧⑨
7	スティッフエリオ	牡	5	58	丸山 元気	音無 秀孝	クビ	⑧	④④⑤⑤
8	クリンチャー	牡	5	58	三浦 皇成	宮本 博	3/4	⑨	⑥⑦⑤⑤
9	エタリオウ	牡	4	58	横山 典弘	友道 康夫	クビ	④	⑩⑩⑧⑧
10	ショウナンパッパ	牡	8	58	吉田 豊	上原 博之	アタマ	⑪	⑪⑪⑪⑪⑪
11	マカヒキ	牡	6	58	岩田 康誠	友道 康夫	1 1/2	⑦	⑫⑫⑫⑫
12	タツゴウゲキ	牡	7	58	秋山真一郎	鮫島 一步	6	⑫	⑨⑧⑧⑨

単勝 ②540円 複勝 ②180円 ①140円 ③260円 枠連(1-8) 620円  
馬連 ①-②970円 馬単 ②-③2,210円 ワイド ①-②340円 ①-②760円 ①-③630円  
3連複 ①-②-③2,720円 3連単 ②-①-③14,560円

ハロンタイム 12.6-11.4-11.5-12.4-12.1-11.9-12.0-11.6-11.5-11.4-12.4  
通過タイム 600m ③35.5-800m ④47.9-1000m ⑤1:00.0-1200m ⑥1:11.9-1400m ⑦1:23.9-1600m ⑧1:35.5-1800m ⑨1:47.0-2000m ⑩1:58.4

### 優勝馬 リスグラシュー

2014.1.18生 父ハーツクライ 母リリサイド 母の父American Post  
安平・ノーザンファーム生産 馬主:(有)キャロットファーム